ばんどう文芸

短歌

今井　清　選

紋白の番（つがい）と見れば豌豆の花咲き始む朝風温し　法師戸　大関　笑子

彼岸会に訪ねし家の和室には籐椅子のあり老いに優しく　長須　野口　芳子

改元の「令和」となりて柿若葉萌え黄の色を解き広げたる　沓掛　木村　愛子

働きて　なおはたらきて柔き手の母が好みし木蓮の咲く　長須　藤井　久子

五月晴れ令和の時代も健やかにボランティアの身をはぐくまむ　沓掛　倉持かよ子

眼病に霊験のある寺あれど出雲は遠くただ手を合わす　矢作　冨山　節子

事故に消ゆ幼き命の献花台テレビに向かひ切なく合唱す　中里　直井　正子

通学路に花を育てし翁逝き紫陽花の雫もはや見られず　平八新田　吉岡　耿

山道の桜吹雪を踏み行けば保育園児らの歌声聞こゆ　生子　高島みさ子

道の辺の木々の中なる山法師淡雪載せる如く花咲く　山　栗原ヤエ子

コンベアに乗せられるしごと日帰りのドッグ終わりて診察を待つ　駒踈　内海　妙子

散歩する人の姿も染まる程見渡す限りネモフィラの花　長須　鈴木　布佐

当世は米が飼料にまわるかと戦時を偲び籾種を蒔く　長谷　荒井　勝

よちよちと歩き始めし初ひ孫転んでは起き我の手許に　岩井　冨山　好三

孫娘親の背を見て看護科に夢と若さで令和に向かえ　みむら　倉持ときの

【評】一首目、「番」の言葉が重く響く。夫を亡くした心情の伝わる挽歌でしんみりとした響きがある。単なる叙景ではない。二首目、仏壇の前に籐椅子が用意されている主の思いやりが読者にも温かく伝わる。三首目、「柿若葉が美しい」という情景をやさしい言葉で巧く表現している。さわやかな心が伝わる。四首目、やわらかい優しい手は母の心も表しているよう。上の句から労働の激しかった姿が想像できる。

短歌の作品を募集します！

皆さんからの短歌を広く募集します。投稿される方は、住所・氏名・年齢・電話番号を記入し、**掲載希望月の前月20日までに届くように**選者宛にお送りください。なお、俳句につきましては、当面の間お休みさせていただきます。

選者　今井　清　〒306-0604　幸田新田435　☎0297(35)2864

のりしろ

市民の声

この線に沿って内側に折りたたんで下さい。

〒

あなたの
住　所

お名前　　男・女　　歳

職　業　　電話番号

※必ずご記入下さい。

のりしろ

のりしろ